



四万十川財団設立 20 周年記念！首長インタビュー 第 2 弾 四万十市長 中平 正宏氏

前回の四万十町長へのインタビュー記事に引き続き、四万十川流域首長インタビュー第 2 弾をお届け！今回は四万十川中流～下流に位置する四万十市の中平正宏市長にお話を伺いました。

■ 市長が子どもの頃、四万十川でどんな遊びをしましたか。

中平市長：遊びといえばもっぱら漁でしたね。小さい頃は四万十川の支流の目黒川で、5・6 年生が親分の下級生がそれを見ながら漁を覚えていく、そんなふうにして遊びました。遊ぶときは今みたいに親が必ずついているのではなく、子どもたちだけで、怖いことも全部上の子から教えてもらいながら遊んでましたね。

私たちが子どもの頃はアユもウナギもたくさんいて、アユはカナヅキ（アユをとる刺突具、今は禁止されている）で突いて捕ったりもしました。夜に瀬に行くと掴めるくらいアユがいたんですが、捕ったアユを石で潰して川に流すと匂いで穴からウナギが顔を出すんですよ。それをヒゴ釣りで釣ったりね。昔は穴という穴にウナギがいて、捕っても雨が降ればすぐ新しいウナギが穴に入るくらい、目黒川は小さい川ですがアユもウナギも多かったんですよ。今はコロボシ漁でも 10 個つけて半分入れば上等ですが、昔は 20 個つけてウナギが入っていないなんてことはありませんでしたね。

冬はヒヨ（鳥）を獲って河原で自分たちで捌いて火を

起こして食べたりもしました。今の子どもたちはそんな経験もなかなか出来ないと思いますが、昔は上の子が先生で生活するすべを教えてくれていたものが、私のすぐ後の世代くらいから少子化で子どもが減り、教える子どもがいなくなったのが大きいんだと思います。

■ 市長が子どもの頃の四万十川と今の四万十川はどう変化したと感じますか。

中平市長：一つはアユやウナギなどの資源が激減したことです。それから出水の時に水が増えるのも早いし引くのも早くなったように感じます。小さかった頃、家の上流に沈下橋があったんですが、一度大きな台風が来たら 2～3 日は完全に通れなくなるほど水が出ていました。でも今は何日もしないうちに水が引くような感じで、山そのものの保水力が極めて落ちているのではないかと感じます。それと砂防ダムで石を止めるので、川エビやウナギなどの隠れ家が少なくなっている、ウナギが入るような穴が埋まっているような気がします。

■ そんな四万十川に対してこれまで四万十市が行ってきた取り組みを教えてください。

中平市長：旧中村市において平成元年に 4 月 10 日を四万十の日と制定し、それから様々な取り組みを行っています。また同年 6 月に発足した四万十の日実行委員会では、流域市町と連携して四万十川一斉清掃に取り組んで

います。

景観保全としては、平成 21 年に岩間の沈下橋右岸側の森林を伐採する計画が浮上していた際に、四万十川財団にもご協力いただきながら地元住民の方々とも協議をし、市が森林を借り上げ、地元の方々とも協力して森林保全活動を行ってきました。現在借り上げ期間は終了していますが、地権者の方々と森林保全の協定を結んでいます。また、沈下橋も老朽化に伴って補修が必要な橋がいくつかあり、今も復旧作業を進めています。沈下橋はどうしても生活道として欠かせないものですし、観光面でも大切な資源ですので、メンテナンスしながらうまく活用していければいいと考えています。今後より一層財団・保全機構の役割が重要になってくると思います。

■ それでは今後四万十川の保全に向けてどのように取り組んでいきたいと考えていますか。

中平市長：まず一つとしては、支流である広見川の濁水問題の対策です。これは何とかしたいんですが、長年の問題であり、まだ抜本的な対策が見つからないのが現状です。止水板を設置するなどそういった形で一定はできますが、農業排水だけでなく、冬でも集中豪雨があれば濁りますし、愛媛県側もだいぶ苦労していると思います。

また、森林保全にも力を入れていきたいと考えています。これは森林環境税の制度がありますのでこれを活用し、山の世話をし、下草が生え、保水力が上がるようにしたいと考えています。山が荒廃したのと一緒に四万十川も荒廃してきたような現状があると思うので、間伐を行うなどしてかつての山に戻せるように取り取ってきたいです。

四万十川の清流は水質だけではなく、豊かな自然と多

種多様な生物が生息し、川とともに暮らしてきた人々の生活文化も含めて清流というのだと思います。四万十川の美しい風景や豊かな自然を後世に残してくため、四万十市単独のものとしてではなく、流域 5 市町が連携して取り組んでいきたいと考えています。

四万十市では、「四万十の日実行委員会」が主体となり、市内の小学校を対象に四万十川や周辺の自然をフィールドに環境学習を行う「水辺の楽校」や、漁協と連携して四万十川の川漁について学んでもらう「川漁体験事業」など、子どもたちが四万十川に触れられる機会を多く設けながら、環境教育の推進に取り組んでいます。水辺の楽校に関しては昨年財団も関わらせていただいております。子どもたちと一緒に水生生物調査などを行っています。今回の取材で四万十市としてはこれまで行ってきた取り組みを継続しながら、流域 4 町とも連携し、川の保全に取り組んでいきたいとの考えを伺うことができました。難しい課題もありますが、今後の市の取り組みに期待したいと思います。



新型コロナウイルス感染症予防のため、マスクを着用して取材に対応していただきました。

#STAY HOME! おうちで四万十!

前回に引き続き、外に出ずとも自宅で四万十を楽しめる、そんなサイトをご紹介します！
今だからこぞできる四万十の楽しみ方を体験してみてください！

■ 四万十とおわ村オンラインショップ

株式会社四万十ドラマのオンラインショップ、四万十とおわ村で、「しまんと流域リレー」を開催中！当初GWのみの開催を予定していましたが、好評につき期間を延長して実施中です。これぞ四万十天然アユやウナギなど、これぞ四万十な商品が揃っているので是非チェックしてみてください！

【四万十とおわ村「しまんと流域リレー」特設ページ】

https://ec-shop.shimanto-towa.jp/fs/kuri/c/g_gw_sh

■ しまんとがわ水族館

国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所が、現在HP上で「しまんとがわ水族館」を開館中！四万十市を流れる四万十川のうち、支流を含めた3地点の水中の様子を観察することができます。実際に四万十川に潜っているような気分で、楽しく生き物について学びながらお家時間を楽しみましょう！

【しまんとがわ水族館】

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/shimantogawa-aquarium/index.html>